令和6年は福島正則没後400年

福島正則 関連遺跡ガイドマップ

「福島正則像」（大阪城天守閣蔵）

福島（ふくしま）正則（まさのり） 1561年～1624年

1600年から1619年までの約20年間、
現在の広島県全体に当たる安芸・備後49万石余を治めた
初代広島藩主・福島正則に関連する
「広島市内の遺跡」・「広島県内の6つの支城」を紹介するガイドマップです。

TAKE FREE ご自由にお持ち帰りください。

【福島正則」1561年～1624年

福島正則は、永禄4(1561)年尾張国海東郡(現在の愛知県あま市)で生まれ、豊臣秀吉とは従兄弟だったと伝えられています。幼少より秀吉に仕え、賤ケ岳の戦いで一番槍の殊勲をあげるなど活躍し、文禄4(1595)年に尾張清洲城の城主となりました。秀吉の死後は石田三成と対立し、関ヶ原の戦いでは徳川方に味方して奮戦し、勝利の立役者となりました。

◆初代広島藩主として

広島城を築いた毛利輝元が、関ヶ原の戦いの結果、慶長5(1600)年に周防・長門の二ヵ国に減封されると、替わって正則が初代広島藩主として安芸・備後2ヵ国を統治することとなりました。広島城へ入城した正則は、城の大幅な増改築を行い、また、国境警備と領国経営のため、本城の広島城のほかに、三原城・亀居(かめい)城・尾関山(おぜきやま)城・五品嶽(ごほんがだけ)城・神辺(かんなべ)城・鞆(とも)城の6つの支城を築き、一族・重臣を配備しました。さらに、領内の検地、新田開発や城下町の整備などを進め、広島藩の体制を整えました。

◆広島城の無断修築疑いによる改易

元和元(1615)年の「武家諸法度」の制定により、城の修築をする際は幕府への届出が必要となりました。元和4(1618)年、正則は前年の洪水で破損した城の修築を行っていますが、この修築について幕府への届出を怠ったと見なされてしまいます。将軍・徳川秀忠は、この不備を条件付きで許そうとしましたが、正則は破却するように命ぜられた石垣とは別の石垣や櫓を崩すなど、期限までに条件を満たせなかったことから、元和5(1619)年、信濃国川中島と越後国魚沼郡へ改易となりました。広島城本丸上段の北東面にある崩れた石垣は、正則による破却跡の一つと考えられています。

◆大身槍 名物「日本号」

正則が豊臣秀吉より下賜され、所有していた槍。この槍を黒田家の家臣・母里太兵衛友信との酒の飲み比べに負けて譲り渡した逸話は、正則の豪快な武将として語られるものの一つです。総長321.5cmで、長さ79.2cmの刃には、不動明王の化身とされる倶利伽羅竜(剣に絡みつく黒い竜)の浮彫があり、柄は青貝細工で埋め尽くす豪華な装飾が施されています。現物は福岡市博物館が所蔵していますが、写しが広島城に展示されています。

発行：広島市市民局文化スポーツ部文化振興課　TEL.082-504-2869　2024年10月発行

三原城跡（みはらじょうあと）（天主台東側・船入櫓など）（三原市）

広島県三原市城町1丁目

三原城は、永禄10(1567)年ごろ小早川隆景統治時代に築城されたとされます。三原城築城を契機に、三原城下は交易拠点として発展し始めました。

関ヶ原合戦後に福島正則が入城し、三原城の西側の町割りが行われ、城下町としてますます発展しました。正則は隆景が築いた三原城を、さらに修築したとみられます。特に天主台の東側や船入櫓の石垣は、隅角部が関ヶ原合戦後に広く普及した「算木積み」と呼ばれる積み方となっており、福島統治時代に新たに積まれた石垣と考えられます。昭和32(1957)年12月に、かつて隆景の居城であった高山城・新高山とともに国史跡に指定されました。

現在は天主台や船入櫓、本丸中門跡などが残っており、かつての三原城の広さを知ることができます。また、天主台の濠周辺は三原城跡歴史公園となっており、武家屋敷の門をイメージした休憩施設のあずまやや、西国街道を イメージした遊歩道が整備され、市民の憩いの場となっています。また城周辺は神明市、やっさ祭りなどの会場にもなっており、三原市のシンボルとして親しまれています。

三原城跡天主台跡

三原城跡船入櫓跡

問合せ先：三原市教育委員会文化課　TEL.0848-64-9234

鞆城跡（ともじょうあと）（福山市）

広島県福山市鞆町後地536-1

鞆は万葉の時代から海上交通の要衝として栄えた港町です。鞆城跡は鞆町の中央に位置する古城山にあります。毛利氏の命により、沼隈半島を拠点としていた渡辺氏が天文22(1553)年前身となる鞆要害を築いたと伝わっており、少なくとも天正4(1576)年、毛利輝元が足利義昭を鞆に迎えた際には存在していました。慶長5(1600)年の関ヶ原合戦後に入封した福島正則は、重臣の大崎玄蕃を配し、三層の天守を築いて本格的な城郭が整備されましたが、一部は鞆奉行所として江戸時代初期まで機能していました。現在は、本丸跡に鞆の浦歴史民俗資料館が建てられていますが、本丸や二之丸の石垣が残っており、鞆城跡からの鞆の景観とあわせて鞆の歴史についても知ることができる場となっています。

海から見た鞆城跡（資料館）

鞆城跡遠景

亀居城跡（かめいじょうあと）（大竹市）

広島県大竹市小方2丁目

関ヶ原の合戦後、広島城に入城した福島正則は、領内の要衝へ一族や重臣を配置して防備体制を固めました。このうち小方には甥の福島伯耆を配置し、慶長8(1603)年に亀居城の築城を命じました。毛利氏に対する重事拠点として慶長13(1608)年に完成しましたが、築城から3年で取り壊されました。標高約88メートルの小山に築かれた亀居城は、本丸に三層の天守を構えたと推定され、11の廓を配した堅牢な城で、城の東と南側は当時は海に面し、北側は懸崖の山で西側の狭い谷間を山陽道が通っていました。

謎に包まれた城が再び登場したのは、350年以上後の昭和52(1977)年でした。都市公園整備事業により頂上周辺を掘削していた中、本丸天守台の西側部分の雑木に覆われた土中から大規模な石垣が発見されました。その後2度にわたって発掘調査が行われ、城の概要が明らかになりました。昭和58(1983)年に市の史跡に指定され、現在は亀居公園として市民の憩いの場となっています。

亀居城の石垣

本丸跡からの眺望

天守台跡

刻印の石

◆石垣の刻印

亀居城の石垣の石には刻印があるものが多く見られます。264個が見つかっていて42種類の刻印が確認されています。広島城と同じ刻印もあります。訪れた際はぜひ探してみてください。

問合せ先：大竹市教育委員会事務局生涯学習課　TEL.0827-53-5800

神辺城跡（かんなべじょうあと）（福山市）

広島県福山市神辺町

神辺周辺は、縄文・弥生時代から人々の定住があり、古代山陽道が横断する交通の要衝でした。南北朝時代に神辺城が築かれて、備後国の政治的な拠点となり、以降、山陽道の宿場町として栄えます。また、天文年間(1532～1554年)には大内氏と尼子氏の権力闘争である神辺合戦の舞台にもなりました。

関ヶ原合戦後には福島正則が筆頭家老である福島正澄(丹波)を城代とし、数度の改築が行われ、福島氏の時代に完成しました。山丘には約200の郭があり麓にも城郭や城下町が築かれました。実に280年あまりの間、備後の拠点として存在していましたが、元和5(1619)年の水野勝成による福山城築城の際に櫓等が移築され、廃城となりました。現在は神辺城跡周辺一帯が吉野山公園となり、桜の名所として市民の憩いの場となっています。

堀切跡（毛抜堀跡）

二番櫓跡から乾櫓跡

三番櫓跡から神辺城下の眺望

問合せ先：福山市文化振興課　TEL.084-928-1278

尾関山城跡（おぜきやまじょうあと）（三次市）

広島県三次市三次町439-3

標高100mに位置します。現在は公園として整備されています。慶長5(1600)年に安芸・備後に入部した福島氏は、主要な地域に城を築き一族・重臣を配備しました。三次には「三次城」に尾関石見守を配しており、この「三次城」が尾関山城跡に比定されています。

尾関山（遠景）

尾関山公園の紅葉

問合せ先：三次市教育委員会 教育部 社会教育課 文化学習係　TEL.0824-62-6191

五品嶽城跡（ごほんがだけじょうあと）（庄原市）

広島県庄原市東城町東城

備中・伯耆との国境に近い東城盆地に位置する、中世末期から近世初頭にかけての山城で、東城の町並みを眼下に見渡せる通称城山(しろやま)に築かれています。郭群は頂部の常の丸・太鼓の平(なる)を中心に北と東に延びる尾根上に集中しており、山麓にも杉の平・物見が丸などの郭が見られます。カヤの平は、最大の郭(65×30m)で、石積の井戸・礎石・地覆石なども見られ、本城の中心となる郭です。中世遺構の上に近世初頭の技術が加えられている点に特色があり、県史跡に指定されています。

この城は『久代記(くしろき)』などによると、15世紀初めに宮氏が築城したとされています。その後、天正19(1591)年に石見から佐波氏が来住し城主となります。さらに、慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いの後、福島正則が安芸・備後に入部すると、重臣の長尾隼人正一勝が城主となります。長尾氏の代には城下町や寺院の整備に力を注ぐとともに、櫓台や城門などの整備も行われ、世直城(よなおりじょう)と呼ばれました。その後、元和元(1615)年の一国一城令の発布により廃城となりました。

毎年11月初旬に東城で催される伝統行事「お通り」は、長尾隼人正が関ヶ原の戦勝を祝して行ったのが始まりとされています。

五品嶽城跡遠景

櫓台の石垣

常の丸

問合せ先：庄原市教育委員会 教育部 生涯学習課　TEL.0824-73-1189